

本研究の一部は文部省科学研究費交付金（各個研究）によつたものである。なお本稿を草するに当たり、京都大学農学部、浜田稔博士からニセマツタケの資料を提供された。ここに厚く謝意を表する次第である。

正誤表—Errata for vol. 34 No. 8 (1959)

		for (誤)	read (正)
p. 239, Line 16		hyalinis, hyalinis	hyalinis,
p. 240, " 4		chelocystidiis	cheilocystidiis
" 18			color, を一つ消す
" 23	Stips		Stipe
" 10 from bottom	×13—15;		×13—15 μ;
p. 241, 2	" unker		under
p. 243, Line 2	oil		soil
p. 245, " 5	chelocy-		cheilocy-
" 13	Kühner		Kühner

○*Neckera tosaensis* と *Neckeropsis calcicola* の北限産地 (水島うらら)

Urara MIZUSHIMA: On the locality of *Neckera tosaensis* Broth. and *Neckeropsis calcicola* Noguchi

本邦中南部から南、台湾、支那大陸に分布する *Neckera tosaensis* Broth. は関東地方では極く珍しいもので、野口彰博士が「日本、琉球、台湾産イタチゴケ亜族及びメリンスゴケ亜族の蘚類」の検討をされた時にもその研究標本の産地は伊勢以北では安房の澄清山が唯一の産地であった。国立科学博物館所蔵の故小泉秀雄氏の標本中に *Neckeropsis Lepineana* と同定された上野、赤城山産の二点 (no. 70455, 70850) があるが、全形、枝長共に *N. Lepineana* より小さく又葉形も異り、*Neckera tosaensis* に当てるのが正しいと思う。上記標本にはいづれも樹木に着生していた由のノートがある。現在のところ北限産地という事に成ろう。

この種は好石灰岩蘚の *Neckeropsis calcicola* Noguchi に酷似するが、この後者も関東地方では珍しいもので、上記野口博士の論文中でもその研究標本の産地は美濃以北では武蔵(棋川村)が挙げられているに過ぎない。又、この棋川村が何処であるかはっきりしなかった。ところが国立科学博物館所蔵の笹岡久彦氏の標本中に武蔵、氷川、日原というのがある。日原附近は石灰岩地帯で好石灰岩蘚が産するのは当然であり、棋川は即ち氷川であろうと思われる。現在ではこの産地はやはり *N. calcicola* の北限に成っているが、今後蘚類の分布が更に明かになれば、その北限産地も更に北上するであろう。標本の閲覧を許された国立科学博物館の小林義雄先生に御礼を申し上げます。